

# えびはら直矢市政報告

発行人 海老原直矢

〒362-0026 上尾市原市北一丁目14番地9 TEL. 048-716-7323

E-mail. ebihara116@gmail.com <https://www.ebihara-naoya.com/>

2023年2号  
2022.13



## 共働き世帯のサポートが必要 時代に合った子育て支援を

夫婦共働き世帯の増加に合わせて求められる支援のあり方は

令和5年3月定例会は2月17日から3月22日まで開催されます。今定例会の一般質問では、①子ども・子育て施策、②都市施策、③まちづくりの3つのテーマについて質問を行います。今回の質問の中核となる項目の一つが『共働き世帯の子育て支援』です。

先日、会派『政策フォーラム・市民の声あげお』のメンバーで千葉県松戸市の視察を行いました。松戸市は、令和2年度・3年度に日本経済新聞がまとめた『共働き子育てしやすい街ランキング』で2年連続1位となり、昨年度も豊島区に次ぐ2位となった、全国的に見ても子育て環境が整った自治体です。

この松戸市では、幼稚園と小規模保育園を組み合わせることで待機児童の解消を図っており、共働き世帯が幼稚園に子どもを通わせることができるよう、幼稚園児童を対象とした『送迎保育ステーション』を複数の主要駅に設置し、朝7時から夜7時まで子どもを安心して預けることができます。

他の自治体でも、多子世帯へのファミリーサポートセンターへの補助(豊橋市)や、学童保育所の一時利用制度(大田区)など、さまざまな支援施策を実施しています。上尾市でも、共働き世帯の急激な増加に対応した支援制度を整備するよう提案を行っていきます。



松戸市幼児教育課よりヒアリング



### キーワード

#### 送迎保育ステーション

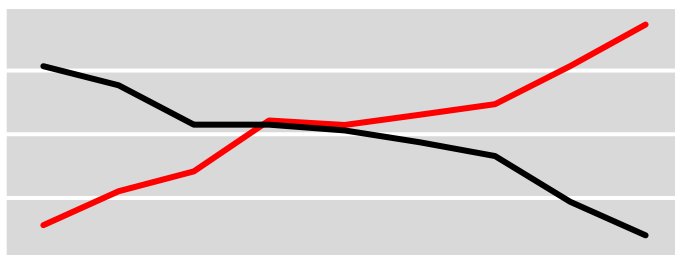
『育児・介護休業法』は育児・介護に携わる労働者について定めた法律で、昨年6月に改正された。これにより、今年4月より**有期雇用労働者の育児・介護休業取得要件が緩和**され、「事業主に引き続き雇用された期間が1年以上である者」であることという要件が廃止された。



### データでみる

#### 共働き世帯の増加

1980年	夫婦共働き 614万世帯	2019年	夫婦共働き 1245万世帯
	男性片働き 1114万世帯		男性片働き 582万世帯



(参照)厚生労働省『令和2年版 厚生労働白書』



一般質問は3月10日(金) 9時30分より行います。

傍聴にお越しく下さい。また、インターネット中継でもご覧いただけます。

(<https://smart.discussvision.net/smart/tenant/ageo/WebView/rd/council.html>)



## 質問予定

- ①子ども・子育て支援
- ②都市施策
- ③まちづくり

### 市民の声

### 質問予定の内容

子ども・子育て

マスク着用のルール

国や埼玉県がマスク着用のルールやあり方について通知を出しているにもかかわらず周知をしていない学校が多く、対応してもらいたい。

マスク着用ルールなどの通知の周知が学校ごとに状況が異なっていたことを受け、きちんと周知されるよう教育委員会として対応すべきと考えるがどうか。

都市施策

新幹線高架下の活用

さいたま市では新幹線高架下が公園や民間施設として活用されている部分が多いのに上尾市では少ない。もっと市民が利用できるようにしてほしい。

新幹線高架下について、沿線自治体で行われている民間事業者による活用や公園としての利用を上尾市においても進めるべきであると考えがいかがか。

まちづくり

広聴制度

最近市民コメントの募集があってもほとんど集まっていないことが多い。もっと市民に対してわかりやすく知らせるべきではないか。

市民コメント制度について、わかりやすい資料を作成するとともに、回覧板や自治会の掲示板を活用して周知を図るべきであると考えがいかがか。



### 質問の項目

- ①子ども・子育て→マスクの着用、働く家庭の支援、幼稚園施策、医療的ケア児
- ②都市施策→原市沼調節池整備事業、新幹線高架下の活用
- ③まちづくり→期日前投票所、平和行政、埼玉版スーパーシティ、広聴制度

## 予算編成要望に対する回答

会派『政策フォーラム・市民の声あげお』として令和4年度予算編成に向けて行った要望への回答をお知らせします。

### 団地の再生についてプロジェクトチームの設置

「情報の共有に努めるとともに、団地再生の検討段階に入った際には、庁内関係部局との連携を図り、必要に応じて具体的な提案をしていきたいと考えている」との回答がありました。

### 子どもの貧困対策について審議会等を設置

子ども・子育て会議委員が2名増員され、子どもの貧困対策に関する専門家2人が委嘱されました。

### えびはら直矢プロフィール

昭和62年12月3日生まれ。  
 ●上智大学法学部卒  
 ●首都大学東京社会人類学教室修了。  
 国連 UNHCR 協会職員などを経て、  
 衆議院議員公設第一秘書を務める。

大学在学中に市民団体を設立し、子どもたちの放課後を考える団体や演劇教育を推進する団体など複数の団体の運営に携わってきた。  
 2017年に上尾市議会議員に当選(現在2期目)。  
 健康福祉常任委員会副委員長。  
 家族:妻、長男(7才)、長女(6才)、次男(4才)

市政へのご意見やお困りごとがございましたらお気軽にご連絡ください →FAX 048-677-1676

お名前

ご連絡先

ご意見やお困りごとなど